

各 位

会 社 名 株式会社コックス
 代表者名 代表取締役社長 池内 清和
 (JASDAQ・コード9876)
 問合せ先
 常務取締役経営管理本部長 高野 秀明
 TEL03(5821)6070

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 24 年 2 月期（平成 23 年 2 月 21 日～平成 24 年 2 月 20 日）の通期業績予想について、平成 23 年 4 月 5 日に発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 24 年 2 月期（平成 23 年 2 月 21 日～平成 24 年 2 月 20 日）連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	27,400	900	1,000	100	3.63
今回修正予想 (B)	25,070	△800	△640	△1,510	△54.80
増 減 額 (B-A)	△2,330	△1,700	△1,640	△1,610	—
増 減 率 (%)	△ 8.5	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 23 年 2 月期)	23,573	13	149	△278	△14.03

2. 平成 24 年 2 月期（平成 23 年 2 月 21 日～平成 24 年 2 月 20 日）個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	27,300	950	1,050	150	5.44
今回修正予想 (B)	25,000	△740	△580	△1,450	△52.62
増 減 額 (B-A)	△2,300	△1,690	△1,630	△1,600	—
増 減 率 (%)	△8.4	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 23 年 2 月期)	23,534	56	191	△293	△14.81

3. 修正の理由

通期の業績は、営業収益 250 億 70 百万円、営業損失 8 億円、経常損失 6 億 40 百万円、当期純損失 15 億 10 百万円と当初予想を下回る見込みとなりました。

当期は、今後の成長戦略実現のために主要三世代トップブランドの確立に向けた既存ブランドの再編とリブランディングの推進、マザーブランド「C I Q U E T O」化の推進を進めるとともに、不採算ブランドの店舗閉鎖、エントリープライス業態カレントの出店開始、E コマースの本格的展開、上海への V E N C E - E X の出店など、中期経営計画に従った構造的な変革を進めてまいりました。

上半期においては、主に震災による影響で第 1 四半期が落ち込み、第 2 四半期で節電関連対応や被災地域の復興需要による回復を図ったものの、震災影響による落ち込みを挽回できませんでした。

下半期には、E コマースの強化及びアジアシフト戦略を当初計画より拡大加速して実施するとともに、主要 3 ブランドのリブランディング及びマザーブランド戦略の実行、不採算事業の撤退を進め第 3 四半期までにほぼ完了いたしました。

しかしながら、暖冬の影響によるアウター不振から売価変更が増加して荒利益率低下を招いたこと、及びブランド変更の価値をお客さまに十分に理解していただくことができず、ターミナル・都市部のファッションビル・R S C では売上伸長した反面、地方小商圏 S C の売上を大きく落としたことなどから、売上高および営業総利益ともに、計画を大幅に下回ることとなりました。

一方、販管費は当初計画から上半期に約 3 億 50 百万円を削減、下半期にはさらに絞り込み 7 億円を削減するなど、ローコストオペレーションを一層強化することができました。しかし、営業総利益のマイナスをカバーするには至らず、下半期の営業黒字は確保するものの、公表数値を下回ることとなりました。

第 4 四半期におきましては、引き続き、

- ・リブランディングの成功事例が都市部で顕著なことから、i k k a、L B C、V - E X に関しては都市部のファッションビル・R S C へシフト、小商圏 S C はカレント業態へのシフトを推進
- ・2012 年春期に成功事例を取り込んだ活性化・出店を拡大するための店舗開発活動
- ・リブランディングに対応した販売力の向上
- ・アジアシフト、E コマースの一層の強化
- ・更なる MD 修正力の向上

等に取り組み、損失額の削減に努めてまいります。

以 上